

## 一般社団法人コミュニティシネマセンター

### 平成27年度(2015年度)事業報告

#### 1.受託事業

##### [1] 地域の映像文化を担う人材を育成する

###### —映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2015

(文化庁平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

H26年度からの継続事業。H27年度は、平成15年(2003)に出された、映画振興に関する懇談会による提言「これからの日本映画の振興について」から10年を経過した現在の状況を把握するための調査やヒヤリングをさらに進め、映画の上映活動を活性化し、振興するための具体的な施策のモデルプランを策定し、ディスカッションを行った。

Fシネマ・プロジェクトのリサーチ、ワークショップ、ウェブサイトの創設、また、東日本大震災の被災地において、新しい街づくりの中で地域の映画映像文化を担う人材を育成するためのワークショップ、“若年層の観客開拓”等をテーマとする映画教育プログラムも継続的に実施した。

リサーチの成果、ディスカッションの採録等を掲載した報告書(A4判/56ページ)を発行した。

##### (1) 映画上映振興プラン立案のためのワーキンググループの活動など

昨年度に引き続き、ワーキング・グループでミーティングを行い、国内の映画上映の現状や動向を調査・整理するとともに、諸外国の映画上映の状況との比較資料を作成、それに基づいて映画上映振興策案を策定した。また、必要に応じて関係者にヒアリングを行った。

ワーキング・グループ:

川村健一郎(立命館大学映像学部教授)、田井肇(大分シネマ5代表/コミュニティシネマセンター代表理事)、太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センターセンター長)、古賀太(日本大学芸術学部映画学科教授)、岩槻歩(日本映画大学講師)、藤岡朝子(山形国際ドキュメンタリー映画祭理事)、志尾睦子(高崎映画祭/シネマテークたかさき)、岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター)、小川菜侑(コミュニティシネマセンター)

##### (2) シンポジウムとワークショップ(全国コミュニティシネマ会議 2015)

2015年9月4日(金)~9月5日(土)

共催:全国コミュニティシネマ会議新潟実行委員会(新潟市/新潟・市民映画館シネ・ウインド、国際映像メディア専門学校)

###### シンポジウム ■プレゼンテーションとディスカッション:文化政策の中の映画上映振興策

【プレゼンテーション】 出演者:川村健一郎、岩崎ゆう子

【ディスカッション】 出演者:[司会]関口裕子(株式会社アヴァンティ・プラス代表取締役)、川村健一郎、富山省吾(日本アカデミー賞協会事務局長/元株式会社東宝映画社長)、田井肇、加藤到(東北芸術工科大学教授)

###### ワークショップ

###### ■新しい映画上映のかたち~これから映画上映をはじめる人たちのために

上映のデジタル化の進行により、映画の上映は格段に容易になり、全国各地で新しい映画祭、上映会が次々に生まれている。野外上映やシネマ・カフェ、新しい映画上映の可能性について話し合った。

出演者:[司会]宮寄善文(NPO 松本 CINEMA セレクト)、松村豪太(ISHINOMAKI 金曜映画館)、近江志乃(ISHINOMAKI 金曜映画館)、長島源(CINEMA AMIGO/CINEMA CARAVAN)、有坂壘(キノ・イグラー)、竹中翔子(シネコヤ)

###### ■小さな町のコミュニティシネマ

人口が少ない町には映画館も少ない。上映の機会も限られている。観客も少ない、若者が少ない、映画・映像にまつわる仕事も限られていて、上映経験を積むことが難しい、多様な世代、観客層に対応することが求められる、“小さな町”のコミュニティシネマを対象に、小さな町だからこそできることを話し合った。

出演者:河本清順(シネマ尾道)、杉原永純(山口情報芸術センター)、原茂樹(日田リバルテ)

■大きな町のコミュニティシネマ

近隣の上映者がネットワークで情報を共有したり、連携で企画を実施したり、“大きな町”のコミュニティシネマが抱える課題、可能性、具体的なプロジェクトについてディスカッションを行った。

出演者:山崎紀子(シネ・ヌーヴォ)、吉田由利香(京都みなみ会館)、北條誠人(ユーロスペース)、平野勇治(名古屋シネマテーク)

(3) フィルムの上映環境を確保する「F シネマ・プロジェクト」ワークショップ

リサーチ及び、フィルム上映のためのポータルサイト「F シネママップ (Fcinemap)」の開設

フィルム上映の現状をリサーチするとともに、映画館等の上映施設へのアンケートを実施。フィルム上映施設に関するデータベースを作成した。フィルム上映のためのポータルサイト「F シネママップ」(fcinemap.com)を開設した。

F シネマ・プロジェクトスタッフ:神田麻美、岩槻歩、岩崎ゆう子

「F シネママップ」開設記念イベント

2016年2月14日(日)

映面上映とトーク 『下町の太陽』(1963/86分/松竹) 監督:山田洋次

トークゲスト:山田洋次(映画監督) 聞き手:富田美香(東京国立近代美術館フィルムセンター)

F シネマ・プロジェクト シンポジウム

■「F シネママップ」のプレゼンテーション 神田麻美、岩崎ゆう子

■映面上映『高崎での話』(1951/20分/RKO バテ社)とトーク

■ディスカッション「映写で映画が完成する～映写という仕事について」

登壇者:[司会]志尾睦子(高崎映画祭/シネマテークたかさき)、鈴木直巳(鈴木映画)、堀三郎(アテネ・フランセ文化センター制作室)、神田麻美、とちぎあきら

映写技師のための「フィルム映写ワークショップ」

2月15日(月)

講師:山形康人(有限会社ヤマガタ映像部門技術者)、飯塚元伸(シネマテークたかさき映写技師)、神田麻美

(4) 映像教育プログラム～若年層の観客開拓プログラムの共同制作

①シネマ尾道「中・高校生映画ワークショップ@尾道 2015」2015年12月20日(日)～2016年2月19日(金)

高校生を中心にした若者が参加対象の映画ワークショップ。中・高校生が同級生や地域の人に観せたい映画をセレクトし、映画を研究し、宣伝するためのチラシ作りにチャレンジする。高校生が友達に観せたい映画として映画『あん』(2014/河瀬直美監督)を選定。「あん」公開期間中、高校生の鑑賞者は48人(26%)、一般は130人(74%)。他の映画をはるかに上回る高校生の鑑賞者数となった。

②川崎市アートセンター「放課後シアターvol.8『THE COCKPIT』2016年2月8日(月)、2月20日(土)

対象の若年層と世代が近い新進気鋭のヒップホップ・アーティスト OMSB と Bim の共同楽曲制作を記録した三宅唱監督によるアート・フィルム/音楽ドキュメンタリー『THE COCKPIT』を上映。2月8日に事前上映を行い、中学生が1人、大学生が3人、高校教諭が3人参加するディスカッションを行った。20日(土)の本番では、映画『THE COCKPIT』を再度鑑賞。映画の上映には34名が来場し、トークショーには29名が参加。トークショーの司会は中学生が行った。トークショーの内容は、参加した学生スタッフ側でzineの形態にまとめて発表。アートセンターの映画制作スタッフ3人がこの活動に加わった。

③アテネ・フランセ文化センター「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション—東京最終上映」

東京国立近代美術館フィルムセンターを皮切りに全国を巡回した、MoMA フィルムコレクションの東京最終上映。デジタル上映が主流となっている現在、若い観客に、映画を「フィルム」で鑑賞してもらい、MoMAの映画部門の役割や映画鑑賞、そして映画作品そのものについて興味を持つようなスケジュールを作成。大学の先生方を中心に、本特集の魅力と意義を授業でご紹介いただき、映画を500円で鑑賞できる学生特別鑑賞券を配布し、若年層が参加しやすい環境づくりをこころがけた。レクチャーのゲストに、フィルムセンター岡島尚志氏と平野

共余子氏、そして若い世代から人気の三宅唱監督らを招いたことにより、授業を受けている学生や、監督のファンなどの関心を喚起することができ、新しい観客を得ることができた。

#### (4) アートマネージメントワークショップ イン 東北

東日本大震災で被災した宮古市、石巻市、釜石市で映像文化事業に携わっている人、あるいは今後文化事業をやりたいと考えている人、学生などを対象に、企画書予算書の作成～広報～イベントの実施といった一連の作業を、ワークショップとして実施した。

##### ① 石巻市

以下のふたつの企画を、企画から広報、当日の運営まで共同で行う参加者を募って実施した。

##### あばいん！ムーミン谷@石巻 ～冬の ISHINOMAKI で楽しむ北欧ウィーク

ムーミン出版 70 周年記念で劇場版 ムーミン南の海で楽しいバカンスを上映し、それと連動した朗読劇、ブックトークを企画。

12/12(土)ブックトーク@石巻子どもセンターらいつ

12/16(水)朗読劇@川の上・百俵館 主催：劇団「スイミーはまだ旅の途中」

12/19(土)『劇場版 ムーミン南の海で楽しいバカンス』上映会@アイトピアホール

##### 『耳をすませば』上映会@アイトピアホール 2016年3月26日

石巻にある「石ノ森萬画館」で開催中の「近藤喜文展」に合わせ、近藤喜文監督『耳をすませば』を35ミリフィルムで上映、石巻好文館高校合唱部によるミニコンサートを上映前に実施した。

石巻では、2013年度に新しい上映団体「ISHINOMAKI 金曜映画館」が設立され、定期的な上映会も行われている。地域の多様な文化事業者の協力を得て、上映にとどまらない企画を実現することができている。十分な集客を得ることができていないことが課題。

##### ② 宮古「みんなの映画祭をつくらう」2015年11月21日(土)、22日(日)、12月4日～6日

12月に開催される「みやこほっこり映画祭」と連動したワークショップを実施した。

[講義] 映画祭を知ろう！講師：金野侑、榎桁一則

[ワークショップ] 「巨大ポスターをつくらう！」

[講義] + [ワークショップ] 映画祭を彩ろう！

講師：ナガタケシ/トーチカ[大阪電気通信大学 准教授]

[実践] 映画祭を盛り上げよう！ワークショップ参加者による映画祭の運営

[ディスカッション] 映画上映/映画祭で語り合う 三陸上映者ミーティング

講師：市井昌秀 コーディネーター：岩崎ゆう子、榎桁一則

【上映(映画祭)】 「箱入り息子の恋」「はじまりのうた」

みやこほっこり映画祭は、過去最高の571名の入場者を記録した。

##### 3 釜石「ツナガル上映会をつくる」

第1回 2016年1月23日(土) テーマ：「映画の仕事を知ろう！」

「自主上映会の方法と実務」講師：榎桁一則(宮古シネマリー支配人)

「これからの地域上映会のあり方」講師：高橋卓也(山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局長)

ワークショップ「ツナガル上映会企画会議！」

第2回 2016年1月30日(土) テーマ：「みんなのココロに届く広報を考えよう！」

広報ワークショップ「多くの人と地域をつなげる広報を実践しよう」

講師：金谷克己(クリエイティブディレクター、デザイナー/株式会社エディションズ)

第3回 2016年2月7日(日) テーマ：「地域に根ざした上映活動のために学び、考えよう！」

補講「自主上映会の方法と実務」講師：榎桁一則

「コミュニティシネマとは～その概要とケーススタディ、そして展望」講師：岩崎ゆう子

第4回(上映会) 2016年3月6日(日) 「成果発表! 上映会を釜石PITで開催」

上映作品：「すーちゃん まいちゃん さわ子さん」(2012年日本、監督：御法川修)

[参加者向け特別講義] 「映画づくりの魅力と、上映会に期待すること」講師：御法川修

## 2. 自主事業

### [1] シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

2011年6月にスタートしたシネマエール東北の活動は、2011年6月から2016年3月末までの約5年間で、620回の上映会を行い、3万人をこえる人たちに映画を届けることができた。

2015年度は、岩手、宮城、福島で、67回の上映会を行い、4,453人の来場者を迎えることができた。5年目の今回初めて、公共ホールや映画館、映画祭での上映の回数が、仮設住宅の集会所等での上映の回数を上回った。これは、文化事業の面でも被災地が復興しつつあることを如実に示すもので、シネマエール東北の活動が、当初の被災地支援から、被災地の文化活動支援へ移行していることも示している。

「シネマエール東北～東北に映画を届けようプロジェクト」は、2016年度からは、「三陸映画上映ネットワークプロジェクト」へ移行し、「アートマネージメントワークショップ イン 東北」と連動して、地域で映画上映活動を行う人材の育成、人口が減少していく中小都市でも持続可能な新しい映像文化の拠点づくりを目指していく。

#### 共同開催、現地事務局・実施団体：

岩手県・みやこシネマライン

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

共催：東日本映画上映協議会、株式会社ポケモン

作品提供：角川書店/松竹株式会社/東宝株式会社/東映株式会社 ほか

後援：日本アカデミー賞協会 協力：岡田劇場/せんだいメディアテーク/朝日座を楽しむ会

岩手県興行生活衛生同業組合/生活衛生同業組合宮城県映画協会/福島県興行生活衛生同業組合

支援：芸術文化振興基金

### [2] シネマ・シンジケート プロジェクト

全国コミュニティシネマ会議のワークショップ等を通して、今後の事業展開について検討した。

### [3] シネマテーク・プロジェクト /Fシネマ・プロジェクト

#### (1) マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集“永遠のオリヴェイラ”Part I の開催

2015年4月に亡くなった巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ監督の追悼特集、Part I では、特別上映作品『レステロの老人』(14)と、『アニキ=ボボ』(42)から『階段通りの人々』(94)に至る8作品を上映。2865人の来場者を迎えることができた。

日時：2016年1月23日(土) - 2月5日(金)

会場：ユーロスペース

共催：ユーロスペース、ポルトガル大使館

特別協力：東京国立近代美術館フィルムセンター/アテネ・フランセ文化センター/岩波ホール/川崎市市民ミュージアム

協力：日本ポルトガル協会/クレストインターナショナル

上映作品：

『レステロの老人』(2014)

2014年のヴェネチア国際映画祭で上映された、オリヴェイラ監督の作品。

『アニキ=ボボ』(1942)/『春の劇』(1963)/『過去と現在 昔の恋、今の恋』(1972)/『カニバイシュ』(1988)/『ノン、あるいは支配の空しい栄光』(1990)/『神曲』(1991)/『アブラハム溪谷』(1993)

『階段通りの人々』(1994)

#### (2) Fシネマ・ツアー2016～35ミリフィルムでみる日本映画傑作選

日本映画の名作をオリジナルの形態である35ミリフィルムで上映し、フィルム上映の鑑賞機会を提供するとともに、その魅力を伝える。

主催：Fシネマ・ツアー実行委員会/開催会場 共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

協力：東京国立近代美術館フィルムセンター

支援：芸術文化振興基金

**2016年1月30日(土)～2月5日(金) 会場:大分シネマ5 bis**

女流文学特集

綴方教室 (1938/88分/東宝) 樋口一葉 (1939/83分/東宝) 花つみ日記 (1939/73分/東宝)

ノンちゃん雲に乗る (1955/84分/新東宝) ※デジタル上映

ゲスト:山根貞男(映画評論家)

入場者数 282人

**2月11日(木祝日)～13日(土)会場:群馬 高崎電気館**

昭和歌謡映画特選

下町の太陽 (1963/86分/松竹) その人は昔 (1967/99分/東宝) 赤いハンカチ (1964/98分/日活)

昭和枯れすすき (1975/87分/松竹)

関連企画ゲスト:山田洋次(映画監督)

入場者数 321人

**3月12日(土)～18日(金) 会場:広島 シネマ尾道**

松本清張×野村芳太郎

張込み (1958/116分/松竹) ゼロの焦点 (1961/95分/松竹) 砂の器 (1974/143分/松竹)

ゲスト:西村雄一郎(映画評論家)

入場者数 104人

**(3)「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」**

Fプロジェクトの一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作の数々を、35ミリプリントで巡回した。今年度は一部作品の追加を行った。

**2015年4月 高崎映画祭**

『地獄門』+紅葉狩 『新・平家物語』 『緑はるかに』+和製喧嘩友達 『お早う』+茶目子の一日

『秋日和』『幸福』

**2015年6月 札幌映画サークル** 『忠次旅日記』(活弁) 短篇集1(初期アニメーション)『瀧の白糸』(活弁) サイレントアンソロジー

**2015年6～7月 名古屋シネマテーク** 『忠次旅日記』 サイレントアンソロジー 『羅生門』『瀧の白糸』『幸福』 短篇集1(初期アニメーション) 短篇集2(実験映画)

**2015年9～10月 神戸アートビレッジセンター/大阪シネ・ヌーヴォ** 全プログラム上映

**(4) MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション**

2014年10月から巡回を開始した「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」。2015年度は下記の会場を巡回した。

2015年4～5月 川崎市市民ミュージアム 12日間 入場者数551人

2015年6月 京都国立近代美術館 2日間 入場者数133人

2016年2月 アテネ・フランセ文化センター 5日間 入場者数364人

2016年3月 名古屋シネマテーク 7日間 入場者数199人

「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」の上映会場数は10会場、入場者数は8,956人。

巡回作品

**ビッグ・トレイル** ラオール・ウォルシュ /**暗黒の恐怖** エリア・カザン /**バンド・ワゴン** ヴィンセント・ミネリ

**イタリアン・アメリカン** マーティン・スコセッシ **スウィート・スウィートバック** メルヴィン・ヴァン・ピーブルズ

**悲しみよこんにちは** オットー・プレミンジャー**ウォーホルプログラム** ヴェルヴェット・アンダーグラウンド&ニコ/スクリーンテスト  
**ディズニー、D.W.グリフィス等の短篇**

**[4] 映画の巡回/特集上映会の開催**

**(1) コミュニティシネマセンター製作『ASAHIZA～人間は、どこへいく』の上映、巡回**

2013年秋に完成した福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA～人

間は、どこへいく』の巡回を行った。

上映会場：下高井戸シネマ（優れたドキュメンタリー映画を見る会）、鹿児島大学、アンスティチュ・フランス東京、ヒューマンドキュメンタリー映画祭阿倍野、土（ひじ）祭（益子）、Hope Step Japan! アムステルダム、さいたま芸術劇場（埼玉映画ネットワーク）、大倉山映画祭 8会場

『ASAHIZA』は2015年度末までに25会場で上映。

『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』 2013年/ 74分 /カラー/ブルーレイ 監督 藤井光

**(2) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。**

コミュニティシネマセンターが保有するフレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行った。

**[5] その他の事業**

**(1) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど**

**(2) ウェブサイトの運営、会員制度の充実など**

2016年5月末のリニューアルオープンを目指し、ウェブサイトの改編作業を行った。

CCニュース、会員向けニュースの配信等を行った。